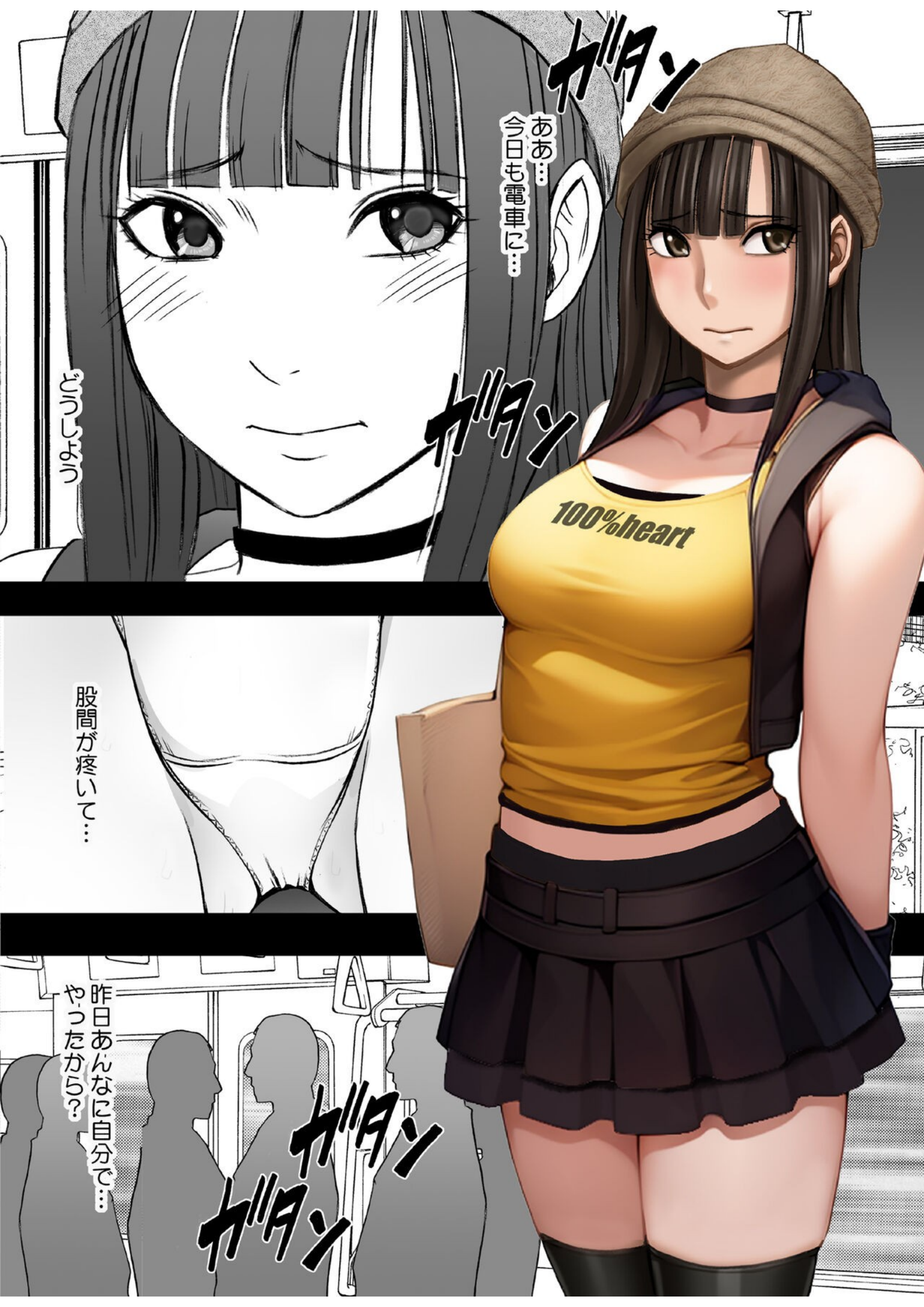




ヴァージン トレイン R2



ああ...
今日も電車に...

うみじけり

股間が疼いて...

昨日あんなに自分で...
やったから?



昨日の夜は
楽しんでくれたかな？

オレが渡しておいた
ローターで



聞き覚えのある

男の声ー

私の後ろに
立っていた

昨日私に
絶頂を教えた男が

第4話

支配者 再び







心を見透かされる
たびに

しかも



心が
見透かされてる…!!

凶星かな？
カラダが正直で
かわいいよ



びくっ

ダメ…!!

こんなの…!!

びくっ

どんどん感度が
上がって…!!

100% heart



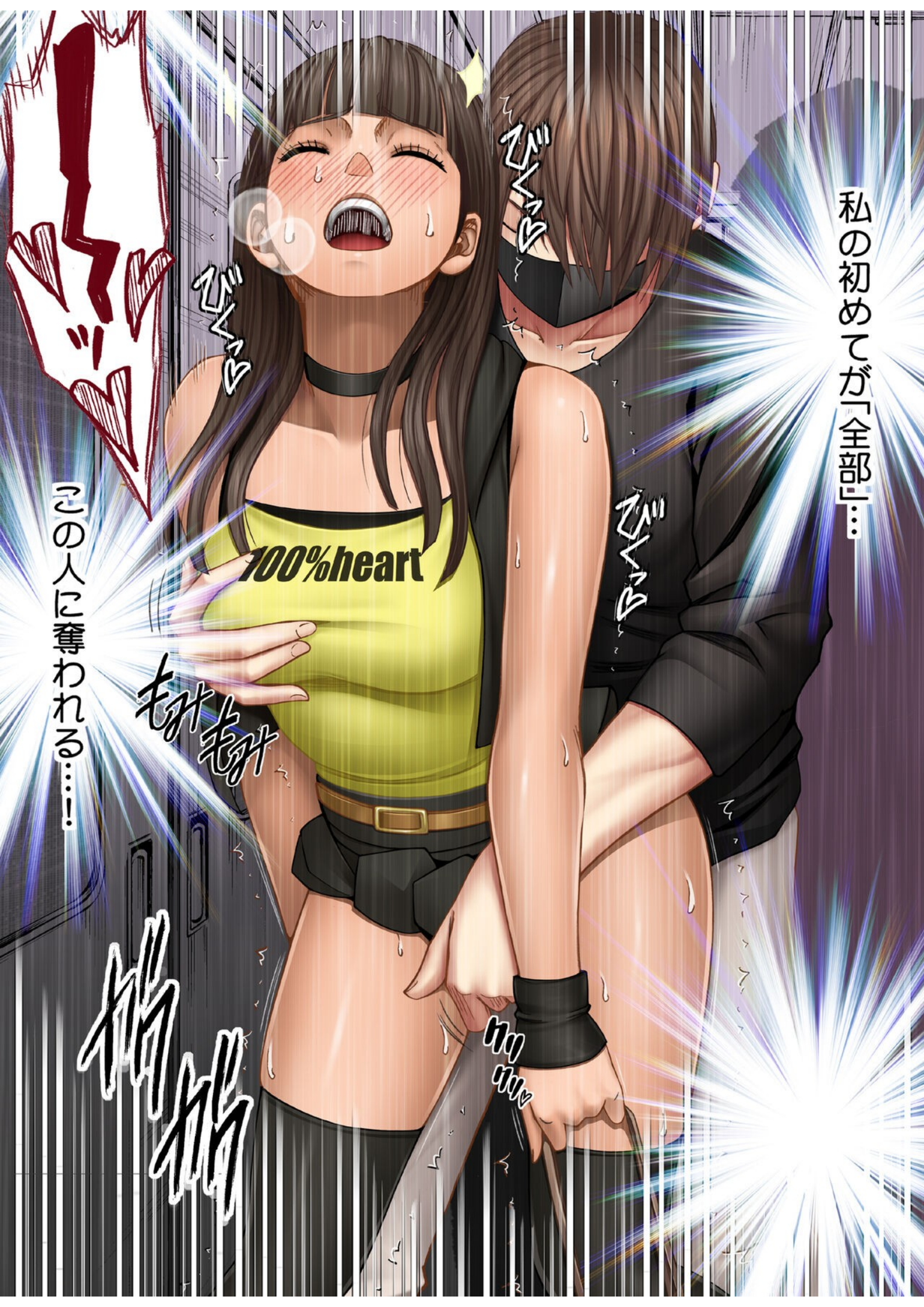
私の初めてが「全部」…

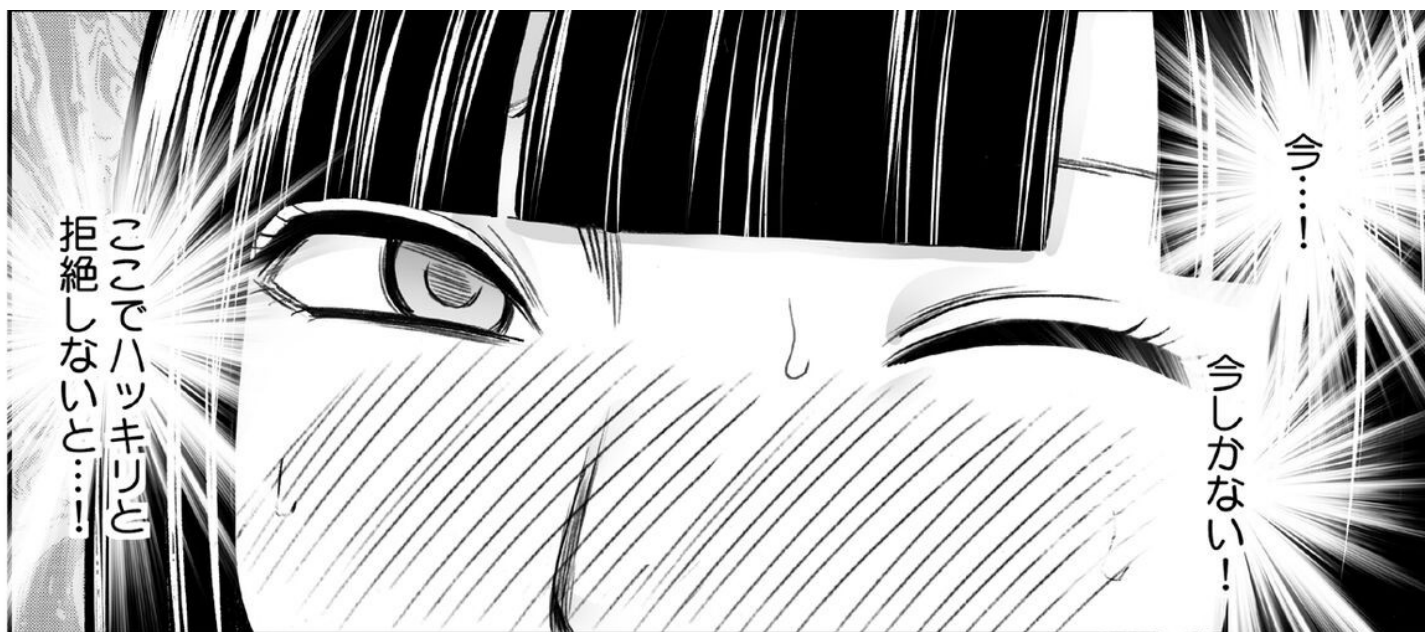
この人に奪われる…!!

100%heart

もたもた

揃揃





今…!

今しかない!

ここでハッキリと
拒絶しないと…!!



手を払いのけて…!

足を踏んづけて…!

この人のほうを向いて
きっぱりと拒絶する…!!

やるしかない!
私は—

痴漢に
いいように弄ばれて

喜ぶような
女なんかじゃ
ないから…!!

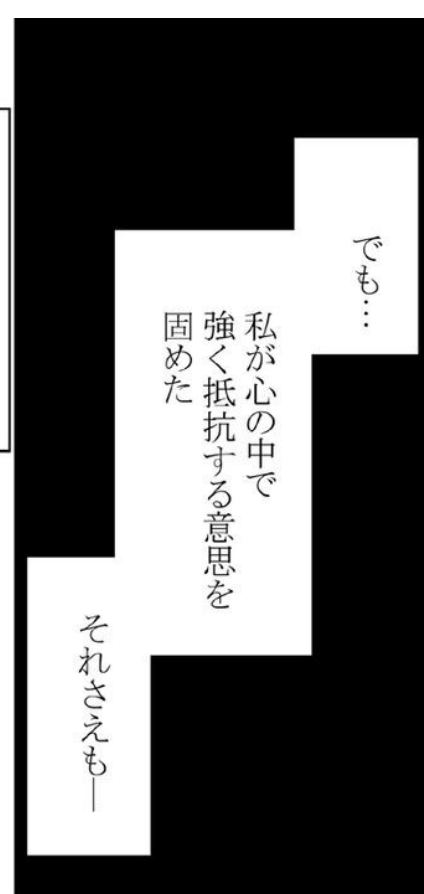


その行動も



「手を払いのけて」
「足を踏んづけて」

「この人のほうを向いて
きっぱりと拒絶する」



でも…

私が心の中で
強く抵抗する意思を
固めた

それさえも—



完全に

見透かされていた



どうしたの？

何か言いたそう
だけど？



足も…！

スカートを
ずり下げられてて
思うように動かせない！



手が…

バッグのひもが絡まって
拘束されたみたいになって…！



それに…

この人のほうを向いて
きっぱり拒絶する
つもりだったのに…！

やっぱり恥ずかしすぎて……!!

顔も見れない……!!

フフフ…
何だかキミが
抵抗しようかどうか
迷ってたみたいだから

手を縛って
自分の意思では
抵抗できないように
してあげたよ

これでもう
キミは

無理矢理されても
仕方ない

100%heart



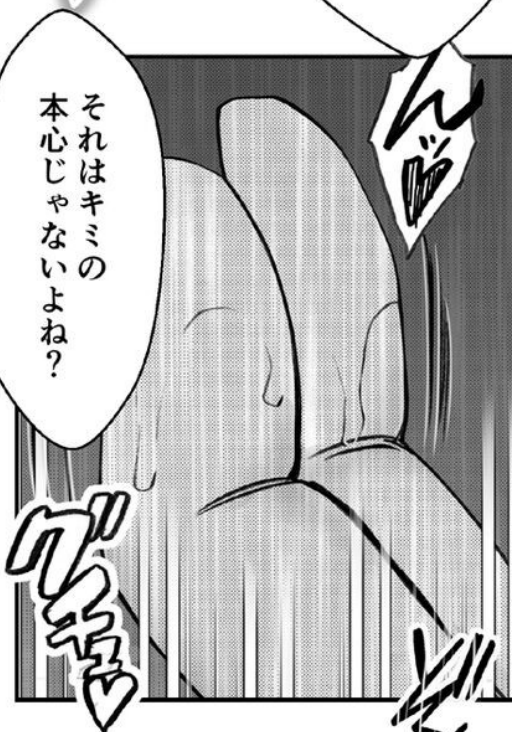
キミの本能が
望んでいるのは…

扉を開けてもらうこと

固く閉ざされた扉を—



羞恥心がジャマして
抵抗しようと
してみたんだけど



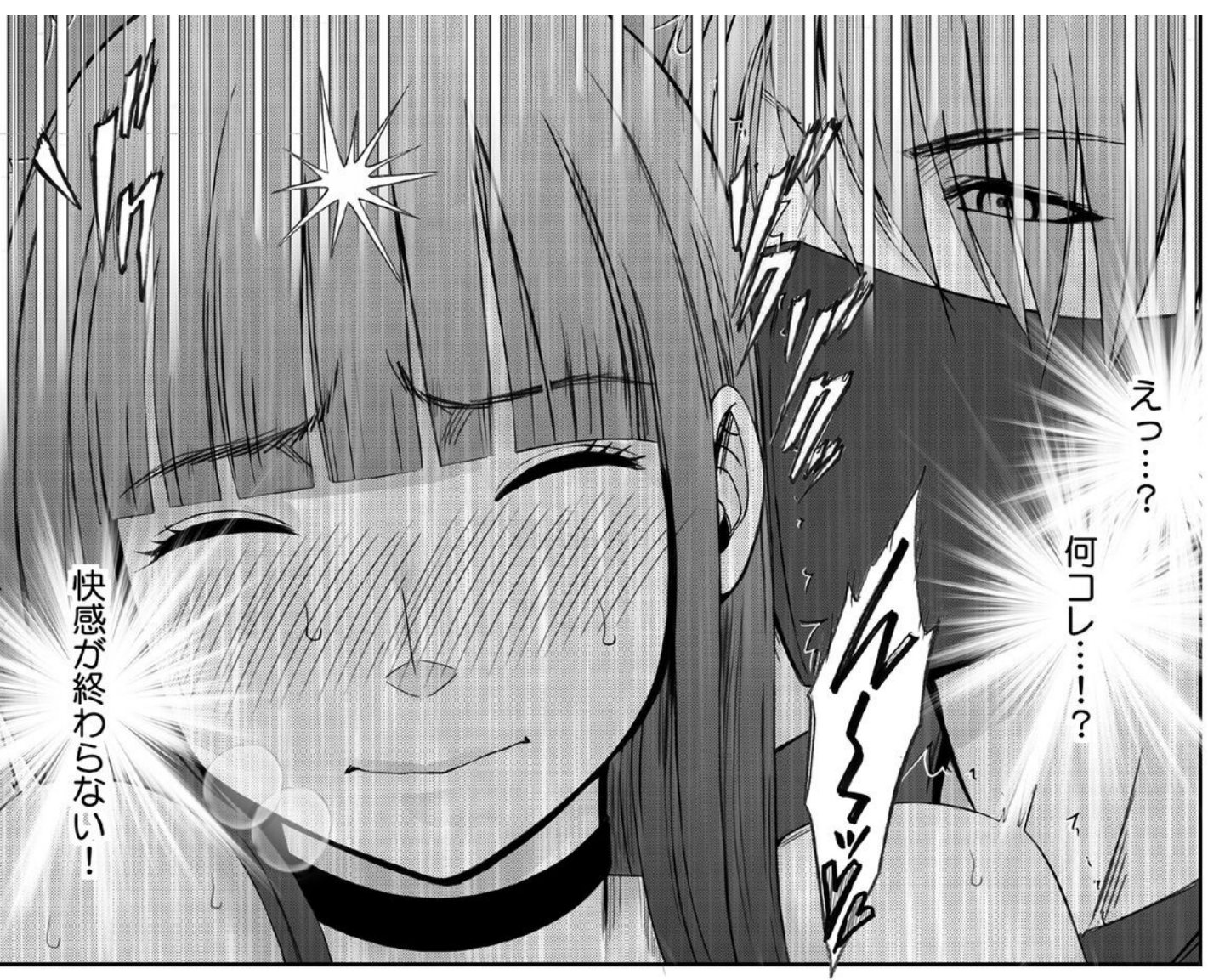
それはキミの
本心じゃないよね？



キミは本当は
抵抗することなんて
望んでいない







えっ…？

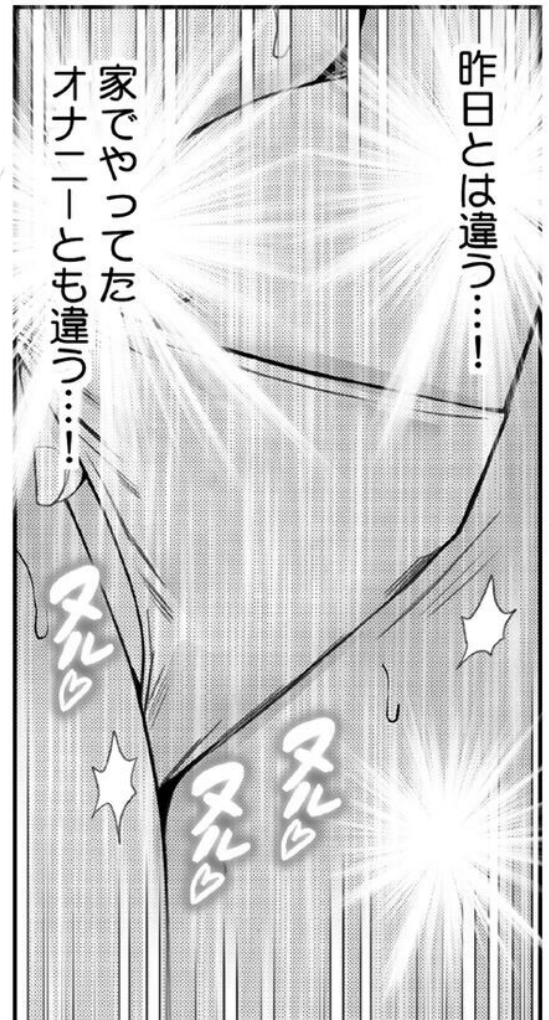
何コレ…！？

快感が終わらない！



快感がー

もっと深く…！



昨日とは違う…！

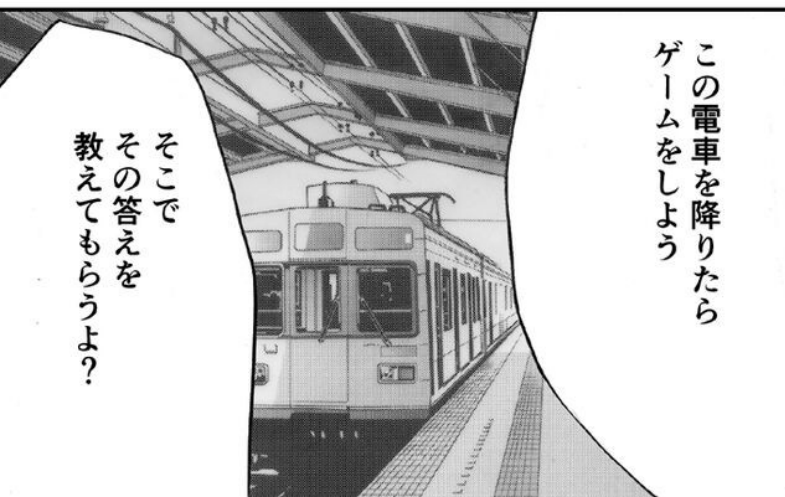
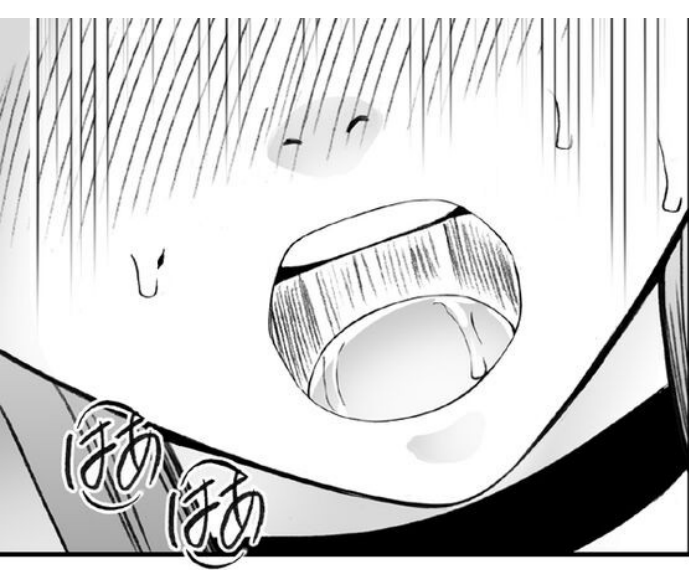
家でやってた
オナニーとも違う…！

ヌル♡

ヌル♡

ヌル♡











第5話

勝っても負けても

そしてゲームは
始まった

フフフ…
電車の中じゃ
じっくり見れなかったけど

本当に
Hなカラダ
してるね

ダメだ…
いつの間にか
脱がされて…!!

ふるふるッ

こんな格好じゃ
スキを見て
逃げ出すことも…!!

逃げようなんて
考えなくてもいい

何も考えずに
本能に身を
委ねればいい

やっ…!!





せっかく
電車でイカされてから

ほんのちよつとだけ
鎮まってるのに…!!

もう
ダメ…!!

一瞬で
快感を

無理矢理
呼び起されて…!!

またカラダが

燃えるように熱く…!!

フフフ…

ぬちゃ

パンツの上からでも
分かるくらい
濡れてきたね…

じゃあ
そろそろ

一度目の質問を
しておこうか



どうかな？
このまま――

負けを認める？

ドキッ



キミのして欲しいことを
するわけだから――



まあ
「負け」と言っても
そのときは



最後までして欲しい
ということをして
認める行動を取ったら

キミの負けだ



結論なんて…!!

そんなの…!!
決まってる!!

絶対にイヤ…!!

結論は
それしかないの!

あと55分間
ガマンし続けて…

最後までは絶対に
させない!





たとえ
この先何分
触られようが

拒絶の意思が
変わるはずはない

私の
初めての相手が



そう
思っていたけど...

その決意は



こんな
見ず知らずの
痴漢男とだなんて

そんなの
絶対にありえない



わずか
10分足らずで

ほころび
始めて…



フフフ...

電車の中で
やっていたときよりも
いい声を出すんだね

ギッ

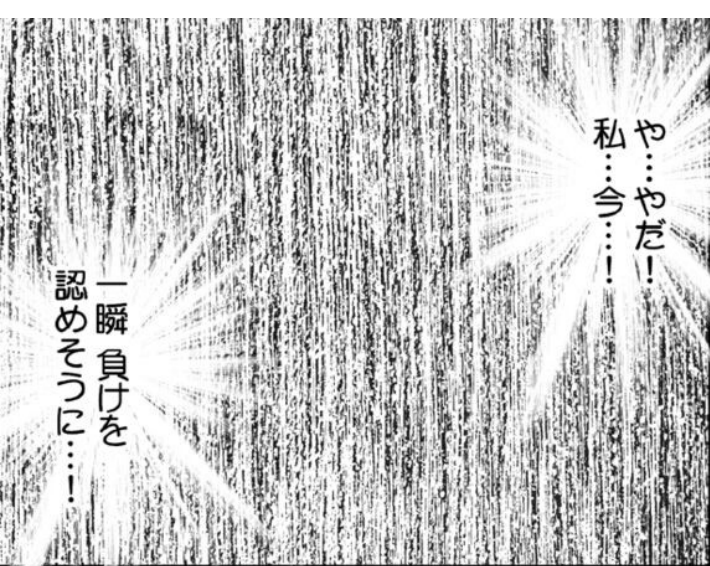
ガマンしようとし
ても
声が漏れ出てるよ?



ここを
触るともっと
声が出るかな?

スッ
流されちゃダメ!











もう今の状態で
ガマンできないくら
気持ちイイのに…!!

これ以上だなんて…

そんなの…私…!!

絶対に
されたくない!!

最後まで
して欲しい…!!

一瞬…

自分の気持ち
が真つ二つに
割れたのが分かった

すべて
この男の人の
言うとおりでたつた

私のカラダは

自分の理性では
制御することが
出来なくなつてた



拒絶なのか
受け入れるのか

もう本能に
身を委ねることで

答えを
待つしかなかった

でも…
そんな私を

この人は

あああ…!!

イク…!!

イクッ…!!





第6話

私の知らないこと



え…？

や…やだ…
今…！

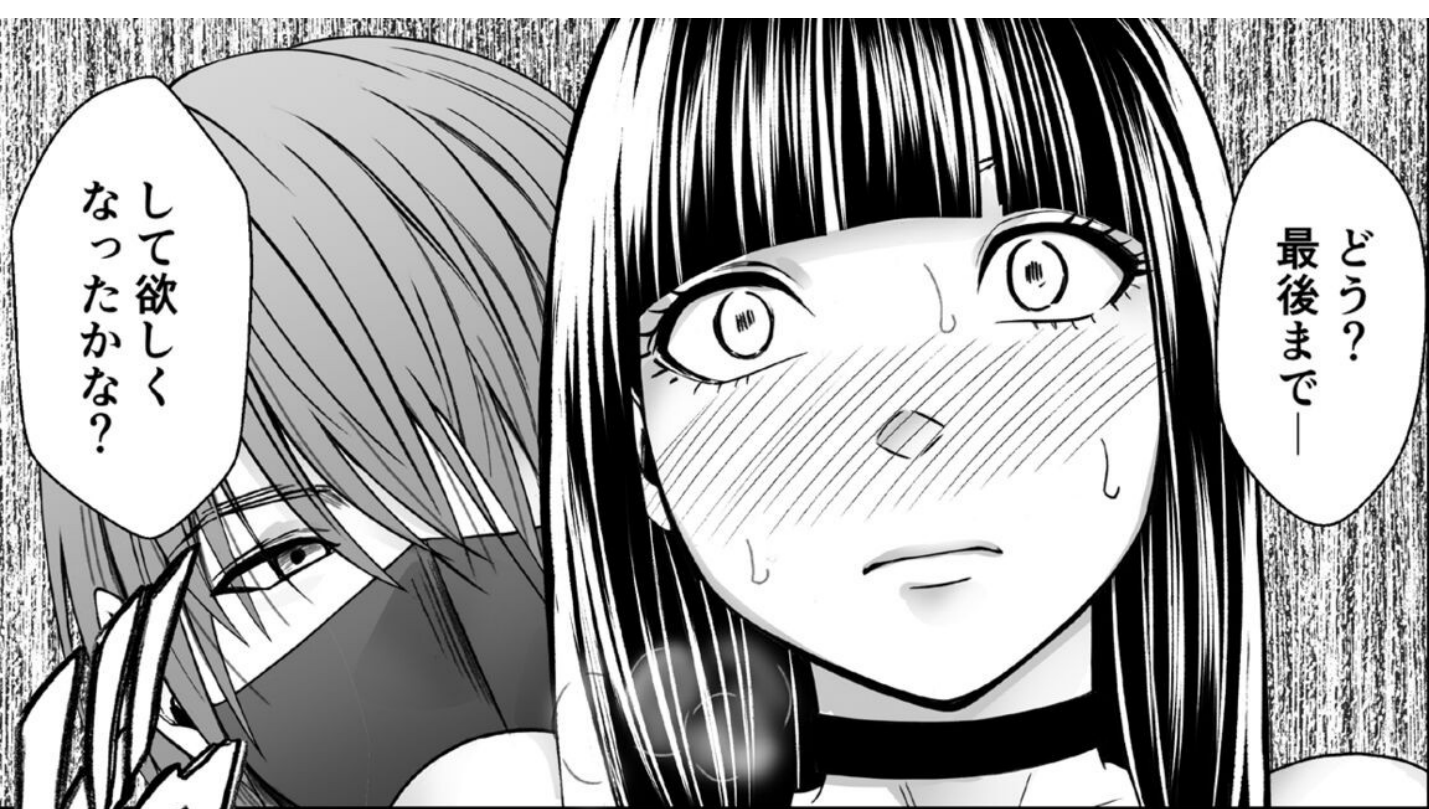
もうちよつとで
イキそうだったのに…！

イキそう
だったのに…

止められた…！

そろそろ
もう一度

返事を聞いて
みようか…？





ああ……!

あ
ん
ん
ん

ん
ん
ん

あ
ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

ん
ん
ん

やっばー
イッちゃっ
う……!

う
ん
ん
ん

ん
ん
ん







偶然じゃない！

まだ…
イキそうになった
直前で…！？

わざと…！

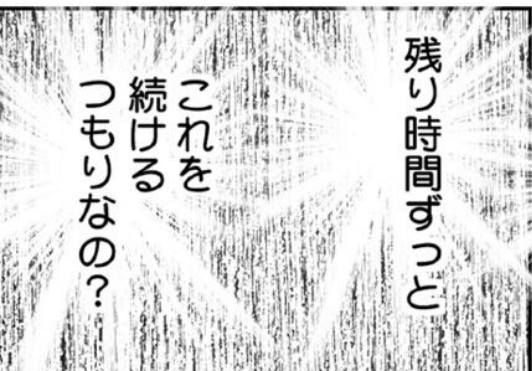
はるはる



私がイキそうに
なってるのを
分かってて

わざと寸前で
止めてる…！

まさか…



残り時間ずっと

これを
続ける
つもりなの？



まさかこのまま

フフフ…



てつきりまた
昨日の電車や
家でのオナニーみたいに

何度も何度も
イカされまくるのだと
思っていた

そういう覚悟で
いたのに

何度も何度も
イカされまくるのだと
思っていた

そういう覚悟で
いたのに

私に
待っていたのは



「寸止め」

イカされることさえも
初めての
経験なのに

イクのを
寸前で止められて
焦らされると
こんなになるなんて

もちろん
知るはずもなくて…

快感で
カラダを
宙に浮かされて



その状態から
降ろして
もらえず

生殺しに
されて…

20分…

30分…





50分と

40分…

イキそうになつては
止められ

イキそうになつては
止められ…



もう心は

完全に…



イキたい…!!

イキたい…!!

イキたい…!!

イキたい…!!

イキたい…!!

最後まで
して欲しい
…!!





その時の私は
まるで

逃げることも
抵抗することも
できなくなっていて

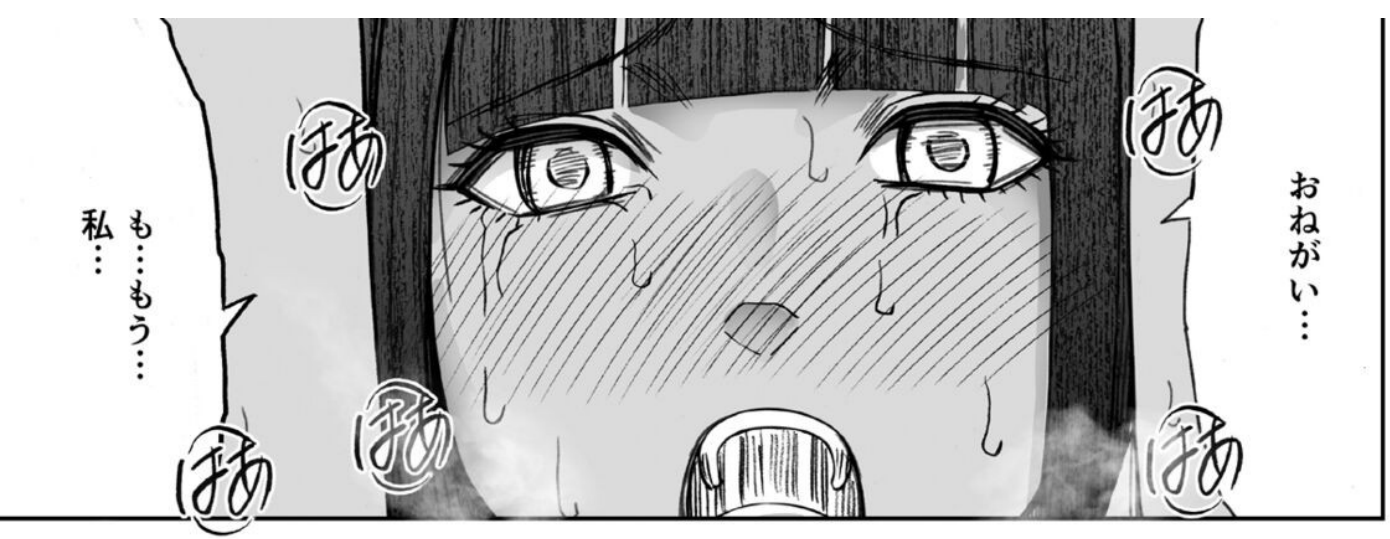


いつの間にか
手も足も完全に
拘束されて



大人しく待つだけの
獲物のようにな
っていた

ただ「とどめ」を
さされることを





キミのアソコに
当たってるモノ…

分かる？



コレを
入れたらいい

キミが望むのなら
そのまま腰を突き出して

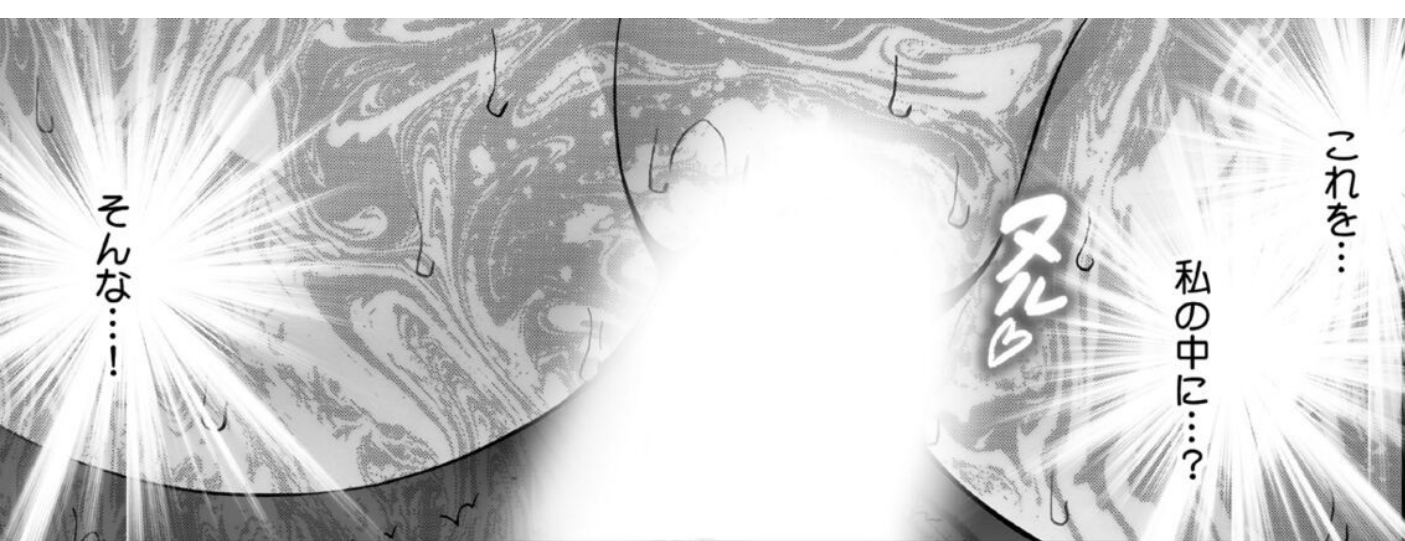


その代わり

とびきりの
エクスタシーを
与えてあげるよ？



もちろん
キミはこのゲームに
負けることになるけど



これを…

私の中に…？

ズン

そんな…！



ダメに決まってる！

こんなこと
ダメに決まってる！

びく

びく

びく

イキたい…！

気持ちよく
なりたい…！

んん

んん

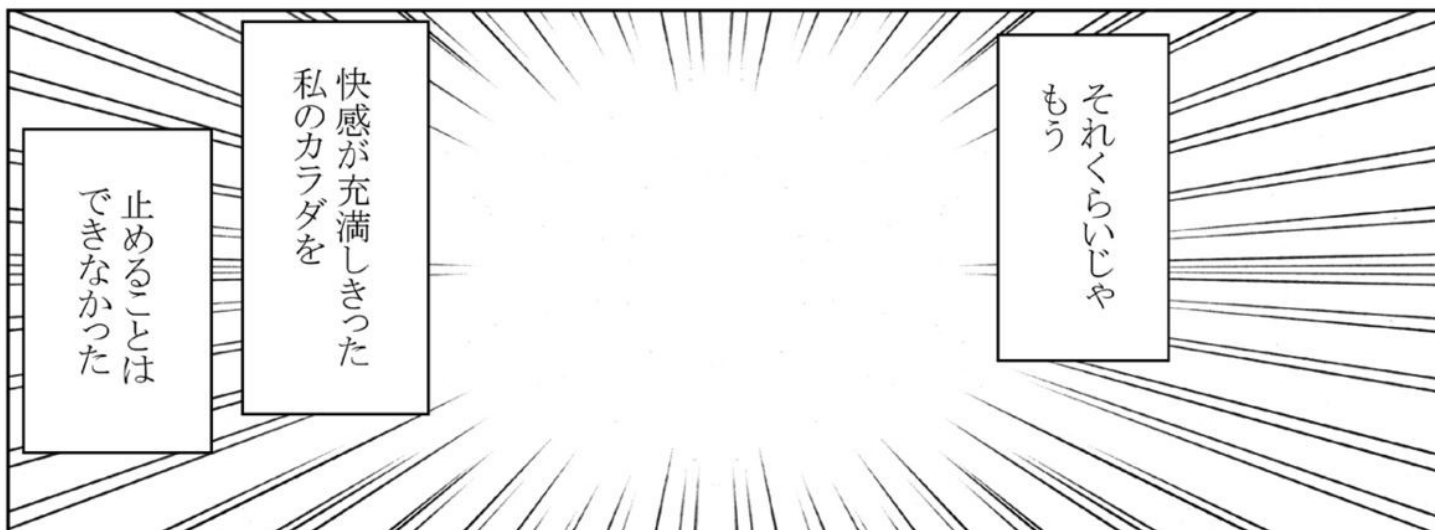
こんなところで
処女を失つては
いけない

そんな理性と

このまま
ズルズルと
快楽に引き込まれて
どこまで落ちるか
分からない

そんな恐怖が

わずかに
ブレーキを
踏んでいたけど



それくらいじゃ
もう

快感が充満しきった
私のカラダを

止めることは
できなかった

もうダメー！

私…ガマンできない！

ハッ
ッ
ッ

ハッ
ッ
ッ

もういいー！

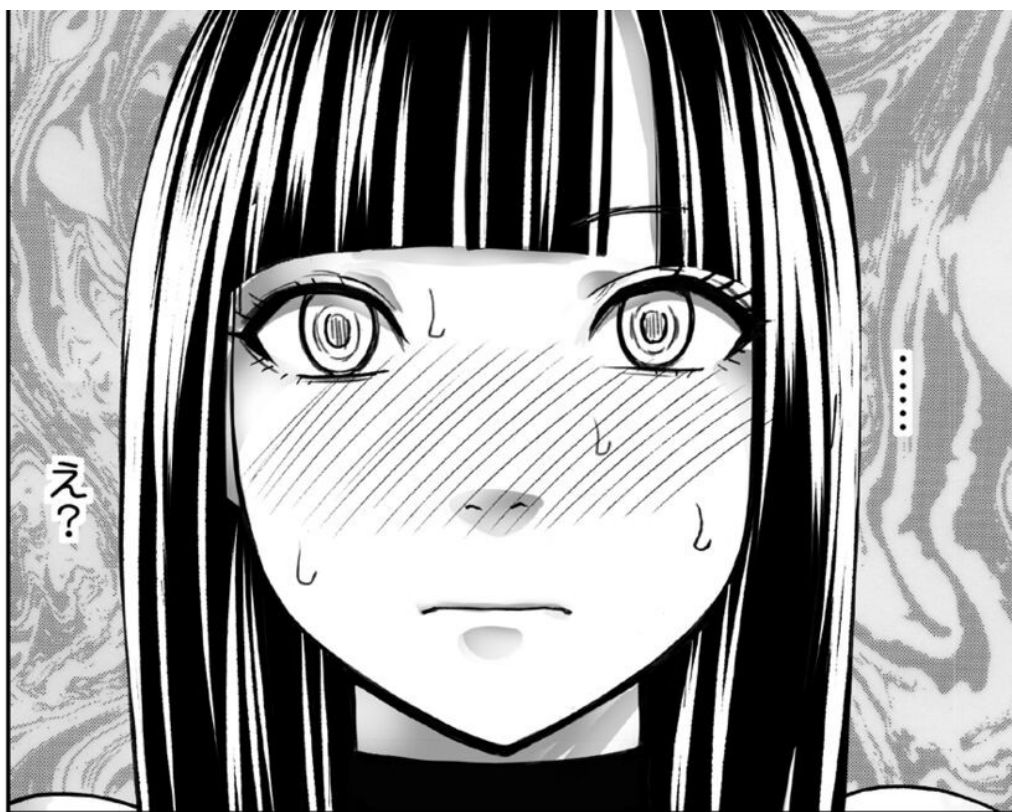
もう…このまま…！！

最後まで…！！



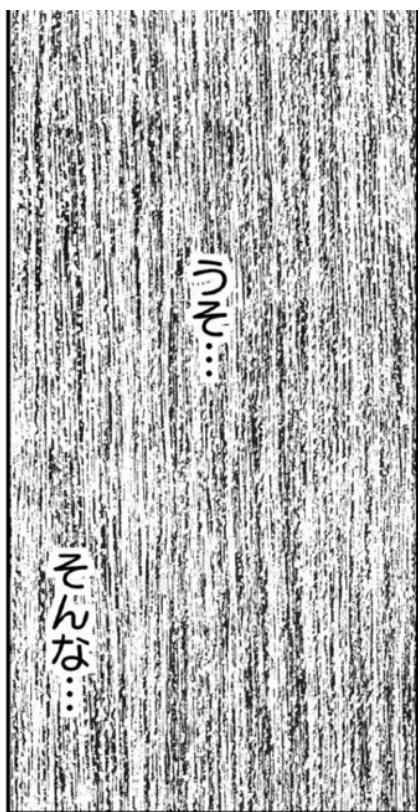






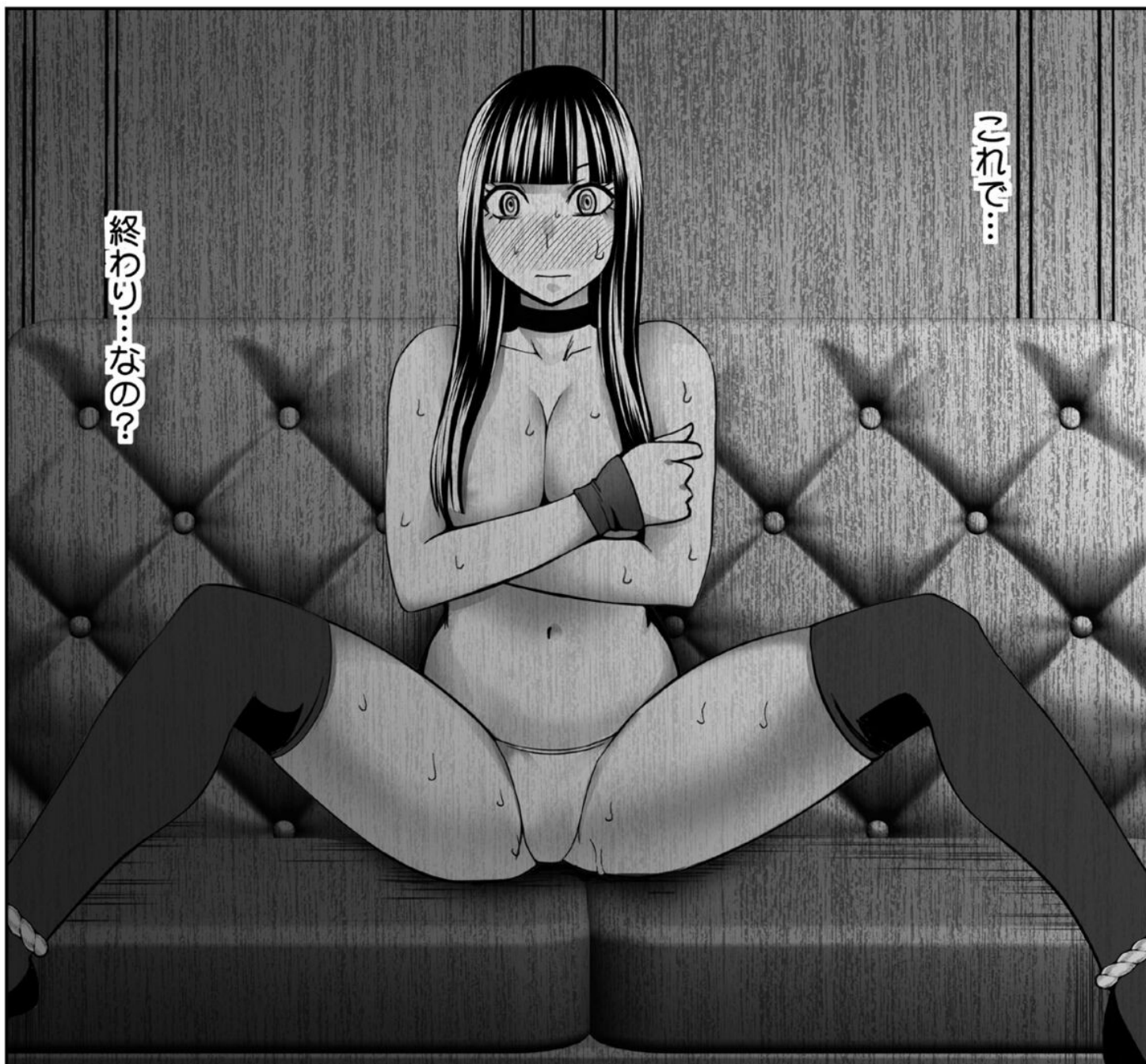
.....

え？



うそ...

そんな...



これで...

終わじ...なの？